

様式(細則 5-2)

令和6年9月11日

浜田市議会議長 様

議員名 村 木 勝 也

調 査 研 究 活 動 報 告 書

下記のとおり調査研究のため視察を行ったので報告します。

記

1. 視察先

邑南町役場

2. 視察事項

邑南町地区別戦略事業「ちくせん」へのIT(kintone)の活用方法、導入に至った経緯等について

3. 視察の目的(市政との関連など)

自治体DXの推進をはかる提言や一般質問へ反映させること。

4. 期間(移動日を含む)

令和6年8月28日(水) ～ 令和6年8月28日(水)

5. 経費 969 円

高速料金 浜田インター～大朝 1,360 円 瑞穂～浜田インター 1,040 円
ガソリン代 1,479 円 合計 3,879 円を4名で案分 1名あたり 969 円
(経費内訳 資料代 0 円、旅費 969 円)

6. 視察のポイント・議員活動や市政への反映など

- ① DX化による業務量の削減と省力化。
- ② 戦略を持ったまちづくりの実践事例。
- ③ ネットワーク構築の仕組みづくり。

7. 視察内容

(詳細は別紙のとおり)



(地域コミュニティ戦略)

- ・旧石見町：当初は 100 世帯程度を単位に自治体を形成→人口減少で再編中
- ・集落→自治会→公民館
- ・自治会補助金出しているが地域間で大きな差（出羽：307 世帯・日貫：17 世帯）
- ・全町で戦略を進めるために「人口の 1 を取り戻すシミュレーション」を各自地区に提示（自分ごとにできる状態に）
- ・その結果、全ての地区が地区別戦略を策定した
- ・戦略（補助金）の条件：人口減少に歯止めをかける、住民主体、地域の総意
- ・都市交流推進拠点整備事業コンペを実施（2 件/年）
- ・提案書を出した時点で審査員から質問があるので、それを踏まえてプレゼンに臨んでいる
- ・集落支援員制度を使った人件費負担と事業補助（段階的に減額して将来的には自走）を行う
- ・委託して事業をサポート（持続可能な地域社会総合研究所、小さな拠点ネットワーク研究所）：スタッフがかわらないため、地域事情の把握もできる
- ・今後は RMO（地域運営組織）へ移行
- ・公民館には正規職員が配置されている

(Kintone の実践)

- ・会計事務の負担軽減
- ・以前は年度末に全てをチェックしていたが、導入後は入力都度チェックができるようになった
- ・地域と行政、地域間などで情報のやりとりができるスレッド機能を活用
- ・RMO が本格的に動く前に、導入しておく必要があると考えている。（各集落への補助金は今も紙ベースの報告）

Q. コンペの申請主体は？

A. 地区ごと

Q. Kintone の利用者は？

A. 集落は入っていない

Q. 導入のきっかけは？

A. 交付金活用時

Q. システム構築は？

A. 担当者とサーボス提供者が構築

Q. RMO への切り替えはどのように？

A. 地域コミュニティのあり方検討会を立ち上げ今後の姿を検討し町に対する提言をしてもらった。活動拠点は公民館へ切り替えていくということになった

Q. 都市交流推進拠点整備事業コンペの事業予算と賞金額？

A. 賞金 500 万円×2 件。直営（審査員は費用弁償のみ）

Q. 地区別戦略事業の委託費用は？

A. 1100 万円程度

Q. 常勤の方の人件費の財源は？

A. 集落支援員制度を活用等

- Q. Kintone の活用の展開は？庁内での活用実績は？庁内での案件管理などもこれでやれば良いのでは？
- A. 空き家事業の情報管理にも活用。アイデアレベルだが、財政担当課から決算情報を各課が入力できたらなどの要望はある
- Q. 島根県のユーザーが入っているのはなぜ？
- A. 県のエリア担当者
- Q. 労力はどれほど軽減されたか？
- A. 導入後、専任はいない。日中の問い合わせや文書の発送などもなくなった。

以上

【所感】

この度の訪問は、7月に行った会派「山水海」政策提言検討合宿での DX の講演の中で、講師一般社団法人小さな拠点ネットワーク研究所代表理事 檜谷 邦茂 氏からの紹介によるものである。

私は、これからの「中山間のまちづくり」で大切なことは

- ① ビジョン、計画の作成
- ② コミュニティー、グループ、団体の形成
- ③ 移動手段の確保
- ④ ITC、AI の活用
- ⑤ 減価償却の意識

だと思っている。

中でも、ITC については、日進月歩であり、毎日の暮らしの中において、整理やチェックするために DX 化することは、人口減少の昨今においては、急務であるとする。

業務アプリをノーコードで作れる「Kintone」は、市役所在籍中においてたいへん興味があった。導入としては、「公民館経理の整理統一と公民館間や生涯学習課とのコミュニケーション」であり、当時の旭支所でデモをしていただいた。結果としては、初期費用が捻出できず、また、ランニングにおいても経常経費が裁量予算と調整がつかず断念した。

邑南町において、地区まちづくりの会計と行政とのコミュニケーションで「Kintone」を活用していることは、正に、私が市役所勤務時代に求めていたことで、浜田市において実現できなかったことは、私の力不足を痛感した。

改めて、邑南町の制度の仕組みをお聞きし、ぜひ、浜田市においても「Kintone」の導入を検討していただきたく、その旨を今後の「DX」の推進における市への提言に盛り込みたいと思った。

視察の状況写真

